

みえ 県議会 新聞

令和6年度(2024年度)NO.1

みえ県議会新聞は、年に2回発行しています。

NO.1では、令和6年8月に開催した「みえ高校生県議会」や議会の仕組みと役割について、次のとおり各紙面でお伝えします。



1 ページ

写真で振り返る「みえ高校生県議会」

2 3 ページ

各校からの質問と答弁を紹介

4 ページ

県議会の仕組みと役割を紹介



本紙は「みえ高校生県議会」特集のため、県内の高校生に配布しています。

高校生の声を県議会へ! ~「みえ高校生県議会」を開催~

当日の様子

令和6年8月21日(水)、県内の11の高校から34人の高校生が「みえ高校生県議会」に参加しました。1校あたり15分の持ち時間で、県政に関する「もっとこうしてほしい!」や「こうなったらいいのに…」と思うことについて、議員に質問や提案を行いました。

各校からの質問と議員の答弁は
2面・3面をチェック!



プログラム

- 10:00 オリエンテーション
- 11:40 オープニング
- 12:00 昼食
- 13:00 各校からの質問と答弁
- 15:55 終了 議事堂見学など

「みえ高校生県議会」とは…高校生が高校生議員として、県政に関する質問を行い、県議会議員が答弁を行う、2年に1回開催する特別な議会です。高校生に議会活動を体験してもらうことで、議会に対する関心を高めてもらうとともに、高校生の意見を議会での議論に反映していくことを目的としています。平成26年に初めて開催し、今回で5回目です。

当日の動画はコチラ



「みえ高校生県議会」の本番まで

高校生議員の皆さんは、6月から8月の本番まで議員と打合せを重ねて、議会の仕組みや役割、県の事業について学び、質問を練り上げていきました。



6月上旬
事前
説明会

県議会の仕組みや役割をはじめ、参加生徒の皆さんが知りたい「議会や議員の気になること」について、議員が答えました。



原稿作成のための
調査・情報収集



6月下旬
事前
相談会

参加生徒が作成した質問を、「より分かりやすく」、「より自分の意見に共感してもらうために」はどうしたらいいのか?という視点で、議員がアドバイスをを行いました。

「議員から客観的に見た感想や、より深掘りした質問をもらって改善点があった」との感想も。他校の生徒と意見交換をして刺激を受けた方もいました。



8月
「みえ高校生
県議会」本番



議員と話をするのは初めて!という方が多く、はじめは緊張した雰囲気でしたが、次第に盛り上がり、最後には「話しやすかった」との感想も出ました。



議長



議長とは、議場の秩序を守り、議会の本会議を進行したり、議会を代表しているいろいろな行事に出席したりする人です。今回の「みえ高校生県議会」では、伊勢高等学校と名張高等学校から1人ずつ立候補があり、前半と後半で交代して議長を務めました。議長席は議場の最も高い位置にあり、議場全体を見渡せます。当日は、傍聴やインターネットでの生中継もあり、とても緊張したと思いますが、2人の高校生議長は、しっかりと進行してくれました。

参加した高校生の感想

・私たち高校生の質問・提案に真剣に取り組んでもらい、うれしく思います。ここを終わりとせず、三重県に住む一員として、よりよい三重県を創り上げていくためにも、考えを止めず、学び続けたいと思います。

・今回の「みえ高校生県議会」を通じて、発表する事前準備の際に議員の方から助言をもらったり、他校と交流したりして、自分たちの質問内容を深めることができたとともに、普段、街頭演説をされている際やポスター等でしか見かけない県議会議員が身近に感じられました。

・あまり関わりのない県議会について知れたり、興味をもつことができたりして良い機会になりました。

・議員の雰囲気が思っていたより重くなくて、どちらかというと明るめだったのが印象的で、とても良いと思いました。



紀南高等学校



「Myまっぷラン+」の活用状況と普及のための対策、及び避難の課題に対する対応について

2年前の「みえ高校生県議会」で常任委員長から紹介された「Myまっぷラン+」をもとに本校の津波避難計画を見直した結果、県道を横断する避難ルートに横断歩道がなかったり、避難場所が使用できなかった場合の2次避難場所の想定がなかったりと、多くの課題が見つかりました。

荊原 広樹 議員

質問の調査から作成まで本当にお疲れさまでした。議場でもしっかり発表されていて感謝しています。他に地域の課題などがあれば、ぜひ三重県議会に気軽にご相談下さい。今後の活躍を期待しています。

津西高等学校



三重県内のバスにおける2024年問題がおよぼす影響について

現在、多くの路線バス会社では、運転手のなり手の減少や高齢化、労働時間の規制により深刻な人手不足が発生し、これに伴い多くの路線で1日の本数が大幅に減少しました。このまま人手不足が横行すれば運行が困難になることは明らかですが、地元では自家用車を持たない高齢者や通学途上の利用者もおり、路線廃止は利用者の生活への影響が懸念されるため、バス会社は赤字でも運行を維持しなければなりません。

東 豊 議員

身近なスクールバスの利用者視点から、県内の路線バスの現状や課題、さらに運転士不足に対する解決策まで提案していただき、素晴らしいかったです。また、公共交通の利便性が高い地域は、暮らしやすさや豊かな日常生活イメージでとても良かったです。

名張高等学校



AIの活用で「質の高い教育」を

変りゆく社会の中で海外の人と交流する機会がより一層増えると思われ、もっと外国の人と会話できる英語力がほしいという声も聞かれます。英語を話すことには大きな壁を感じており、今の英語力が不安を感じています。英語力が高いという調査結果がある井原さんといった市外の学習状況を調べ、英語を長く話すことが、力の向上につながると考えられます。

吉田 敬華 議員

学校生活をより良いにしたいという思いにあふれた。他の生徒からも共感される質問でした。質問は、英語のアクティビティを増やすことができ、英語力の向上につながると思います。

三重県の高校生は、1人1台端末を持っていますが、危険なサイトを開いたり、ウイルスに感染したりしないようになると、教育委員会が制限をかけています。しかし、この制限があるとAIを使った英語

相可高等学校



地域の食文化を幅広く知ってもらうために

本校がある多気町には、伊勢もや次郎餅、おきん餅など、地域住民だけが知っている他地域ではあまり知られていない、魅力的な特産品が多くあります。多気町に限らず他の地域でも同じようなことはあるのではないのでしょうか。三重県文化を振興させるためにも食文化に対する探求をしていくべきではないでしょうか。

芳野 正英 議員

地域の食文化や食文化への愛着を感じる質問ですね。現在のチラシをバナーにして用意するなど質問を「解ける」工夫をしてみてください。昼食や休憩の時間には、他校生徒に積極的に話しかけるなど、「コミュカ」満点の明るい3人でした。

津高等学校



三重県の過疎化に対する取り組みについて

県における過疎化について、本校生徒にアンケートを実施したところ「三重県は過疎化が進んでいると思う」という回答が約9割の人が「はい」と答えた一方で、約7割の人が県の政策が取るべきこと（以下「HP」）や広域を見たい、約9割の人が県の過疎化に対する取り組みを知らないとの結果となり、県の政策は若い世代を中心に浸透していません。その原因として、県のHPで政策の取り組みページを見つけるのに時間がかかることにより、掲載する要綱等に具体性を付せたり、知れた1情報をまとめてどうでしょうか。

伊藤 雅彦 議員

三重県の過疎化に危機感を持ち、校内アンケートや体験を通じた具体的な対策を提案されたことは見事でした。また、その原動力が郷土愛であることは感動しました。皆さんもぜひ、三重の未来は明るいと思われたいです。ぜひ皆さんも自分から声を上げてほしいです。ずっと応援していきます！

セントヨゼフ女子学園高等学校



三重県の医師不足を解消するには

「三重県医師確保計画」により、三重県の医師の数は増加傾向にあります。しかし依然として医師不足の状況が続いており、県内の医師確保にも課題となっています。大学教育の見直しについて、「地域医療」をテーマにした講義や全29市町での教育実習、へき地・離島の医療機関での体験学習をコーディネートするなど、三重県における教育の充実に取り組むことが、地域医療の担い手の育成に努めています。さらに地域大学と連携して、将来医師不足が予想される診療科での勤務機会を設けました。また三重県地域医療研修センターでは、今年5年度までに県内外の医師から390人の若手医師を受け入れています。

辻内 裕也 議員

お二人の質問は県の医師不足の要因について多面的に考察され、AIを活用した遠隔診療等、具体的な提案も盛り込まれ、県議会の一般質問として十分な質を誇る極めて完成度の高いものだと思います。ありがとうございました。

動労環境の改善に向けては、県独自の「女性働きやすい医療機関 認定制度」により医療従事者が働きやすい環境づくりを促し、子育て医師等復職支援事業を通じて、産休・育休後の就業復帰や院内保育所の運営支援を行っています。

津田学園高等学校



三重県の観光・パリアフリーについて

伊勢志摩地域では、パリアフリーマップの配布や障がい者用トイレなどの情報を発信し、パリアフリーに取り組んでいます。また、街全体で障がい者も温かく迎えてくれる雰囲気があるので、外出に準備しなくても家族も気兼ねなく観光ができ、安心して楽しめます。こうした取り組みを県全体に広めることで、県外や海外へ障がいのある方にも受けやすくなり、全ての方々に魅力ある三重県を観光してほしいです。

藤根 正典 議員

家族旅行という実体験から、パリアフリー観光をテーマに選んだことよかったです。再質問で、誰でも安心して温泉に入浴できる「使い切り入浴着」の普及や、障がい者への対応などについて、具体的な提案まで進めてくれたこととてもよかったです。

津工業高等学校



一人一台端末を使った学習環境の改善について

全校生徒へのアンケート調査の結果、1人1台端末の日常使用について、4つの問題意識を持ちました。1目下、登下校時における破損や悪天候での故障、教科書等と合わせ大変重く、持ち運びの負担が大きいこと。2目下、中学校では校舎内に保管・充電ボックスがあり学校で管理されていますが、高校では自己管理であり学校内で充電ができず困ることがあります。3目下、端末を使用することが目的化してしまい、数学の平方根やグラフなど、ノートやプリントのほうが有効な学習で端末が使用され、学習の効率が悪いと感じる場合があります。

小林 正人 副議長

生徒や教員の皆さんが端末を効果的に活用するための環境整備について、全校でのアンケートを行い、4つの問題意識と2つの改善策を提起していただきました。大変実現に即した内容でした。受け答えも元気一杯で素晴らしいです。

みえ夢学園高等学校



公共交通機関の不便さについて

公共交通機関を利用して通学する生徒は、電車やバスの本数が少ないと感じています。JRは遅延も多く、車を所持しない高齢者も不便さを感じているのではないのでしょうか。県の課題として、公共交通の担い手の確保があります。運転士の確保の取り組みとして、自動運転やAIマドなど交通IXも導入していると思いますが、具体的な進捗はどのように、また、今後、県の取り組みによって県民に届いていくのでしょうか。

松浦 麗子 議員

地域課題である公共交通機関の不便さについて、高校生視点から具体的に取上げ、高齢者等多様なニーズに配慮した改善提案は素晴らしいと、地域全体に有益であり共感を得るものでした。昼食時の交流では、将来の夢を拝見し楽しい時間を過ごしました。

高齢者や外国人、普段あまり使わない人のために、乗り場が多い駅やバス停に分かりやすい案内などを設置する予定はありますか。イオンモールにあるような無料貸付の大型タブレットで外国語にも対応できるものを作ってみようでしょうか。

四日市高等学校



人口減少対策としての結婚に結びつく支援制度について

県は、未婚率の上昇や少子化の要因の1つと捉え、「みえアウトリーチサポートセンター」を設置して相談支援や市町・企業・団体による出会いイベントの開催を発信しているほか、結婚を希望する方のマッチングをお手伝いする「みえの縁むす地域サポート」を募集するなど、結婚を希望する方の多様なニーズに応じた出会いの支援に取り組んでおり、今後も一人一人寄り添った効果的な出会い支援の事例研究を進めたいとの意向を示しています。

龍神 啓介 議員

結婚率と出生率の関係を分析し、他例も示しつつ、メタバース婚活支援を提案する斬新なアプローチ。価値観を押し付けてはならない配慮も素晴らしいです。説明会ではやや不安そうでしたが、堂々と質問できては素晴らしいです。

伊勢高等学校



森林の有効活用と意識改革

世界では1分間に東京ドーム2つ分の森林が消えており、森林の破壊は野生動物の絶滅や地球温暖化につながります。一方で、森林を保全することは水や水不足を抑制したり、海洋環境を豊かにしたりとさまざまなメリットがあり、健全な森林を育むには森林の効率的な活用が必要です。しかし、県にはまだ整備されたという森林が少なく、土砂崩れを誘ったり、海洋環境を汚染したりというさまざまな森林の機能を最大限に活用できていません。

東 豊 議員

森林破壊という巨大なテーマに対し、身近に出来ることからアプローチは素晴らしいです。「三重の木つかり会」など県の取組状況を調査して問題点を示し、森を身近に感じる体験の重要性を踏まえた具体的な提案も3つあり、とても良かったです。

事前の説明会・相談会や昼食で参加生徒と関わった議員（広聴広報委員会）から参加生徒へのコメントを記載しています。

「みえ高校生県議会」開催後の議会の動き

皆さんの高校生ならではの視点より分析や、独自のアンケート等に基づく視察力や質問や提案については、議会の議論の場を通じて反映させていきたいと考えています。

高校生議員の皆さんの中から、議員となり、地域の発展のために働く人が出てくことを願います。

編 福 昭 希

委員間討議など

委員会では、高校生議員から質問・提案と、答弁の内容を委員長から各委員に共有しました。その後、委員間で話し合ったことについて、委員長が各議員と関係する「委員長報告」に対して報告を担当し、「みえ高校生県議会」の提案等を踏まえた対応を求めました。

委員長報告

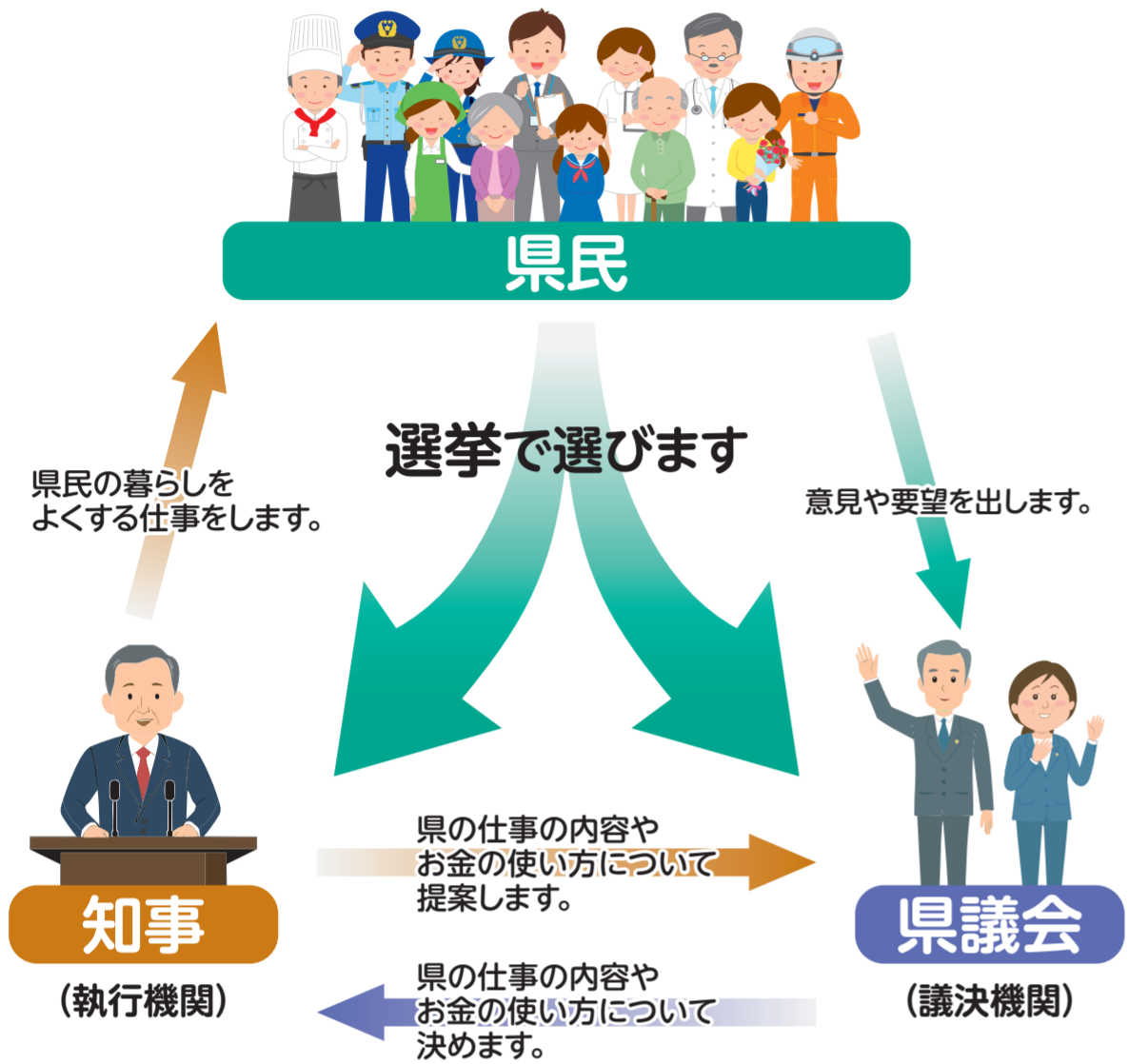
10月18日(金)の本会議では、各常任委員会でも話し合ったことについて、委員長が各議員と関係する「委員長報告」に対して報告を担当し、「みえ高校生県議会」の提案等を踏まえた対応を求めました。

※質問・答弁の内容は令和6年8月21日時点のものです。

三重県議会の仕組みと役割

県民・県議会・知事の関係

県議会は、県民から選ばれた県民の代表である「県議会議員」で構成されています。「議決機関」として、県政を進めるうえでの大切な事柄を話し合い、決めていく重要な役割を持っています。県議会で決定されたことを実行するのが知事をはじめとする「執行機関」であり、議決機関である県議会と執行機関である知事が車の両輪のように県政を進めていきます。



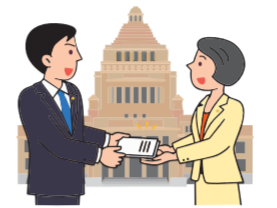
県議会の主な仕事



議決
予算を決めたり、条例を制定、改正、廃止したり、県の重要な事項を決めます。



調査と検査
県の仕事が議会で決めたとおりに進められているか、調査・検査します。



意見書の提出
県民の代表として、県民の福祉や利益になることについて国などに対し、「〇〇してほしい」と意見を出します。



決議
政治・行政に関する課題に対して、議会の意思を表明します。



請願・陳情の審査等
県の仕事について、してもらいたいと思うことは、誰でも文書にして県議会に提出することができます。これを請願または陳情といい、議員の紹介によって議会に提出されたものを請願、紹介がなく提出されたものを陳情といいます。議会は県民から提出された請願・陳情を審査するなどし、採択された場合は執行機関に送付して県政への反映を求めたり、国に意見書を提出したりします。

政策立案と政策提言

三重県議会では、知事から提出された議案を審査、審議するだけでなく、住民本位の立場から、議員や委員会から発議する議員提出条例の制定、議案の修正、決議等を通じて、知事等に対し、積極的に政策立案や政策提言を行っています。

<近年の議員提出条例>

- ・花とみどりの三重づくり条例
- ・差別を解消し、人権が尊重される三重をつくる条例
- ・三重の木づかい条例

詳しくはコチラから▶



議員提出条例

三重県の予算や条例等が決まるまで

本会議

委員会

議案上程



議案とは、議会で決定することが必要な案件を提案するもので、主に予算や条例案などがあります。議案上程とは、議案を本会議の議題として取り扱うことです。

提案説明



議案について、提出者から説明します。議案は知事・議員・委員会から提出されるものがあります。

議案質疑



議員が議案の内容について質問をします。

議案を委員会へ付託



議案を詳しく議論するために、少人数の議員で構成される専門の委員会へ審査を託します(付託)。

※予算・決算に関する委員会は議長を除く全議員で構成されます。

委員会で審査



専門的に審査・調査するため、議案の内容に応じた委員会で詳しく議論を行い、委員会として賛成か反対を決定します。

委員長報告



ご報告申し上げます。委員会での審査が終わった後、決定した内容を委員長が本会議で報告します。

討論



本会議での採決の前に、議員がその案件に対して、反対か賛成か自分の意思を表明することができます。自分の意見に反対の議員や賛否に悩んでいる議員に対して、自分の意見に賛同するよう理由を述べます。

採決



議案について賛成か反対かを、本会議の出席議員の多数決で決めます。

本会議・委員会とは?

【本会議】

全議員で構成され、議場で開催する会議のことです。県議会の最終的な意思決定は本会議で行います。



【委員会】

委員会では主に本会議から付託された議案・請願の審査や調査を、6つの行政部門別常任委員会(総務・地域連携交通・政策企画雇用経済観光・環境生活農林水産・医療保健子ども福祉病院・防災県土整備企業・教育警察、各定数8人)と予算決算常任委員会(定数47人)で分担し、行っています。



議会ホームページ



みえ県議会新聞



議会Facebookページ